



中間言語としての確認要求表現「よね」「だろう」
「じゃないか」：韓国人日本語学習者を中心として

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-09-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金, 京実 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00010133

中間言語としての確認要求表現「よね」「だろう」「じゃないか」 — 韓国人日本語学習者を中心として

金 京実

1. はじめに

現代日本語には「よね」「だろう」「じゃないか」などに代表される確認要求表現がある。確認要求とは、聞き手に依存して情報の確実化を図る行為と定義できる。これらの三形式は、相互に言い換えが可能になることもあり、類似性が高いことも認められるが、それぞれ特有の機能も持っており、自然会話の中で果たす対人関係的機能は極めて重要である。日本語学習者にとっても、様々な日本語会話の場で、より発話の効果を高め、自然なコミュニケーションを行うために、習得しなければいけない重要な項目でもある。しかし、実際これらの表現は文法的な項目に比べ、日本語教育において学習レベルが低い段階では、あまり重要視されていない。そのため、学習段階の高い学習者の中にも、これら一連の表現の使用頻度が低く、誤用も多く見られる。

学習者の言語は、Larry Selinkerにより「中間言語」という用語で概念化された。現在「中間言語」の考え方には様々な理論的立場があるが、「第二言語習得過程にある学習者の第二言語能力の総体」ないしは、「第一言語から第二言語に向かう中間的な存在で独自の規則性を持った言語である」という意味としては共通的である¹。このような考え方から、日本語学習者の日本語は、日本語に向かう中間的な存在であり、独自の規則性があると考えられる。

本稿では確認要求表現として「よね」「だろう」「じゃないか」の3形式²をとりあげ、韓国語を母語とする日本語学習者の習得程度や、中間言語的な規則性を探ることを試みる。さらに分析の対象を、質問と応答という談話形式と、自然会話の資料に基づいたアンケート調査に分け、考察する。

本稿は、以上のことを踏まえ、日本語学習者に対する終助詞の教育を実践する際、教授法・教材等として有益なモデルを提示するための基礎的な分析になることを目的にする。

2. 確認要求表現の一般

確認要求表現に関しては、特有の形式の機能や用法間の相違について考察している多くの先行研究がある。だが、本稿では、蓮沼昭子(1995)の「よね」「だろう」「じゃないか」の確認用法の分類に従うことにする³。蓮沼昭子(1995)によると、確認用法として「よね」「だろう」「じゃないか」は、それぞれ固有の用法を持ち、また互換的に使用可能な場合もある。しかし、この場合、それぞれの意味が等価であるとは限らず、微妙なニュアンスの相違は存在する。また、蓮沼昭子(1995)は、確認的に用いられる場合の用法の重なり程度に基づいて、五つの用法に分け、その使い分けを考察している。以下のこれらの用法についての具体的な内容と(1)から(5)までの

例は、蓮沼昭子(1995)による。

第一に、共通認識の喚起用法とは、認識的に優位な位置にいる話し手が、自分と同様な認識をもつように聞き手を促し、その成立状態を確認するといった共通の働きをする用法である。

(1) 同級生に加藤さんっていた{だろう／じゃないか／よね}。背の高い男の子

第二の認識形成の要請とは、通常の認識能力を持っていれば、認識できて当然といった見込みに基づいて、聞き手に認識形成を要請する用法である。

(2) だから言った{でしょ／じゃないか/*よね}。あの人には気をつけなさいって。

第三は推量確認である。聞き手の判断を話し手が推測し、確認しているもので、「だろう」の固有の用法でもあるという。しかし「よね」形式が使用可能になる場合は、内部知識・既有知識の検証という心的操作が関与するところがあるといった文脈である。

(3) 疲れた{でしょう/*じゃないの/?よね}。ゆっくり休んでね。

第四の認識生成アピールとは、話し手自身が知識を獲得したことを詠嘆的に表明する用法である。

(4) [開けてみたら中身が空なのを発見して]

なんだ、空っぽ {じゃないか/*だろう/*よね}。

第五の相互了解の形成確認とは、(5)を自分の知識が不確かな場合に、それを聞き手に確認するという意味として把握することである。

(5) 私、ゆうべ、眼鏡、ここに置いた {よね/?でしょ/*じゃない}。

以上の蓮沼昭子(1995)の分類は、本稿で行う分析の確認要求表現の分類として用いることにする⁵。

3. 確認要求表現の中間言語調査

3.1 KYコーパス分析

3.1 分析の概要

日本語学習者のOPIテスト⁶を文字化した言語資料であるKYコーパスの中で、韓国人学習者30人の資料を対象として考察する。本稿では以下、分析対象とした格段階の日本語能力の判定及び名称については、OPIにおける言語能力判定結果のものに従う。

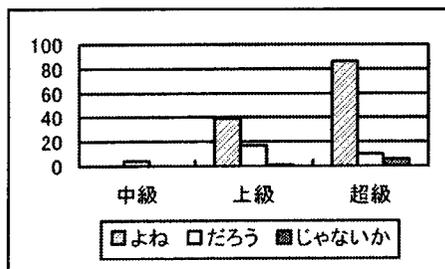
3.2分析結果

まず、30人の資料の中から文末表現として「よね」「だろう」「じゃないか」の3形式がそれぞれ何回使われているかを調べた。その結果が【表1】である。そして、各項目の回数を各合計に対する百分率として示しているのが【図1】である。

【表1】各段階における3形式の使用回数

	初級 (5人)	中級 (10人)	上級 (10人)	超級 (5人)
よね	0	0	39	43
だろう	0	4	17	5
じゃないか	0	0	1	3
合計	0	4	57	51

【図1】三形式の使用回数



【表1】を見ると、まず、初級学習者には、3形式の使用は全く見られず、すべての発話が終止形で行われている。中級学習者からは「だろう」形式のみ若干見られるが、上級学習者からは「よね」形式においてかなりの数値が見られる。これは【図1】の百分率のグラフからも、「だろう」「じゃないか」に比べて「よね」の使用が圧倒的に多いのが明確にわかる。そのため、今回は最も多く使用されている「よね」を伴った発話をすべて調べた。その結果(6)のように確認要求を行う情報の性質によって話し手にのみ属する情報と、(7)のように話し手・聞き手の双方に属する情報に分けられた。また、(8)のように発話の意図や文の構造上、不適切だと考えられるものは誤用と判断し、その結果を以下の【表2】と【図2】に示した。

(6)S⁸: 大学の違いですねー、私が韓国で出た大学は短大だったんですよ、 <KS01⁹>

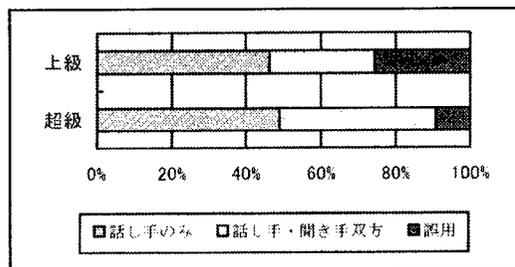
(7)S: 日本は九谷焼きとか、瀬戸焼きとか、なんか下にポンと押されてますよね、 <KS01>

(8)S: *日本よりは、ちょっとあの社会問題っていうんですか、今の福祉環境問題はちょっと低いレベルですよ、 <KS01>

【表2】情報の性質による「よね」の分類

	話し手にのみ	話し手・聞き手双方	誤用	合計
上級 (10人)	18 (46.2%)	11 (28.2%)	10 (25.6%)	39 (100%)
超級 (5人)	21 (48.8%)	18 (41.9%)	4 (9.3%)	43 (100%)

【図2】「よね」に対する分類



【表2】を見ると、上級学習者のデータからは、情報が話し手にのみ属する場合の使用が46.2%を占めており、情報が両方に属し、聞き手に対する確認要求としての使用は28.2%に留まっていることがわかる。だが、超級学習者の分析結果を見ると、情報が話し手にのみ属する発話において「よね」の使用率は上級段階とはほぼ同じである。しかし、誤用を比べてみると、超級学習

者は誤用が少なく、確認要求表現としての使用率は顕著に上がっていることがわかる。情報が話し手にのみ属する場合の「よね」は、おおよそ「よ」に置き換えても与える印象にはそれほど差はない。また、今回の分析では扱っていないが、終助詞「ね」の使用は中級段階から多く見られており、上級では「ね」の習得はすでに行われていると言える。そのため、このことから上級と超級段階の日本語学習者は「よね」の「ね」が「丁寧さ」を表すという意識に基づいて、聞き手の存在を意識し、「丁寧さ」を表すため使用していると考えられる。さらに、情報が話し手・聞き手の双方に属し、確認要求の表現として使われている「よね」使用回数について考察し【表3】に示す。

【表3】確認要求の表現としての「よね」の使用

	三形式使用可 ¹⁰	「だろう」置き換え可	「よね」のみ可	合計
上級	10	1	0	11
超級	12	1	5	18

蓮沼昭子(1995)によると、三形式がすべて使用可能な発話は、共通認識の喚起という用法になる。従って、上級以上の学習者からは、話し手が確認を行う発話について聞き手も社会の一般的な知識として認知しているはずだという意識を持つ上で、「よね」を用いると考えられる。「だろう」と置き換えが可能になる「よね」の発話としては、(9)のようなものがあり、「よね」形式のみ使用可能なものには、(10)のようなものがある。

(9) T: 韓国はどちらからいらっしゃったんですか

S: ああ、ソウルはご存知ですよね

<KAH01¹¹>

(10) T: はいお祝いの

S: お祝いの言葉ですよね, <ええ>¹²は一そうですね,

<KS01>

また、「だろう」の使用に関する結果は次の【表4】のようになる。微妙なニュアンス的な違いを除けば、他の二形式と置き換えの可能な発話は例(11)のようなものであり、共通認識の喚起の用法と考えられる。一方、(12)は「だろう」のみ使用可能な場合で、(13)が誤用として判断できる例である。

【表4】「だろう」に対する分類

	三形式使用可	「だろう」のみ可	誤用	合計
中級	1	2	1	4
上級	6	1	10	17
超級	3	1	1	5

(11) S: 何か、相撲は、押しても、<はい>勝ちでしょ <KIH02>

(12) T: 個人主義という言葉はいい意味ですか、悪い意味があるんですか、韓国語で、どちらですか、

S: これはたぶんいい意味の方でしょう、<あ、そうですか>はい <KIH02>

(13) T: 日本のテレビ番組ってどうですか

S: *おもしろいです、< [笑い] >あー、さっき日本の生活もおもしろいでしょ、
<KIM01>

一方、「じゃないか」の使用は他の二形式と比べ、その使用回数が著しく少ないことが【表1】でわかる。「じゃないか」の発話は、全部で四つ出ており、その中で「だろう」と置き換えが可能となる例(14)だけが、聞き手に対して、わかってほしいという意図で用いる認識形成の要請用法と見られるもので、それ以外の三つは共通認識の喚起用法として用いている。

(14)¹³ S: うーん、でもテストはテスト、パーティはパーティじゃない <KA03>

以上のことから、次のことが言えるだろう。上級以上の学習者において習得されている「確認要求」とは、話し手が聞き手も自分と同様な認識ができるという肯定的な見込みに立ち、それを共有するように求める言語行為である。これらは話し手と聞き手の共通認識の喚起と言えるもので、この用法については、かなりの程度習得されている。また、「よね」「だろう」「じゃないか」の三形式の使用においては、「よね」の使用が他の二形式の使用より、顕著に多く見られる。この点については、「だろう」と「じゃないか」形式に関する場面について多様な用法の学習が必要だと考えられる。

4. 確認要求表現に関するアンケート調査

4.1 調査の概要

今まで、KYコーパスに基づいて分析を行ってきた。しかし、自然会話の場合も、KYコーパスの分析から分かったことと同じことが言えるかについては、考察する必要があると思われる。そのため、自然会話に基づく例文に対してアンケート調査を行い、その分析を試みる。

まず、原理的に日本語母語話者の発話には誤用はなく、日本語母語話者が聞いて奇妙だと感じたものを誤用として見る。そのため、日本語母語話者に対してもアンケート調査を行い、日本語学習者の中間言語調査をする上での基盤とする。その理論的な根拠としては、長友和彦(1991)のSVM(Systematic Variation Model)の立場をとることにする。長友和彦(1991)のSVMは日本語母語話者の使用にも系統的な可変性(systematic variation)のある表現において、日本語学習者の運用能力の習得過程は、この系統的な可変性に近づいて行く過程であると仮定するモデルである。

本稿は、言い換え可能な表現の日本語学習者の考察を行う上で、有効な方法と考えられる長友(1991)SVMと同じ理論的立場から、日本語母語話者の確認要求表現の選択結果に近づくことが第二言語としての日本語の習得過程であると判断している。

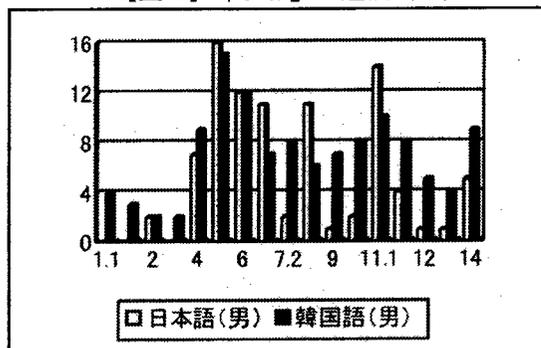
4.2 調査の方法

今回行ったアンケートの対象とした日本語母語話者は男性16人(以下の図において日本語(男))と女性19人(以下の図において日本語(女)), 韓国語を母語とする日本語学習者男性16人(以下の図において韓国語(男)), 女性19人(以下の図において韓国語(女))である。日本語学習者は、男性、女性ともに来日期间が1年から2年間の日本語学校の上級クラスに在学中である。アンケート調査は、14問17項¹⁴のもので、確認要求表現「よね」「だろう」「じゃないか」の三形式の中で、最適だと判定するものを一つ選ぶ方法を採用している。アンケートの中の例文は三編¹⁵のシナリオ作品から、確認要求表現として上の三形式に互換性が認められる例文と、各一形式しか用いられない例文を取り出し、登場人物の情報と状況の説明を加えて作成したものである。

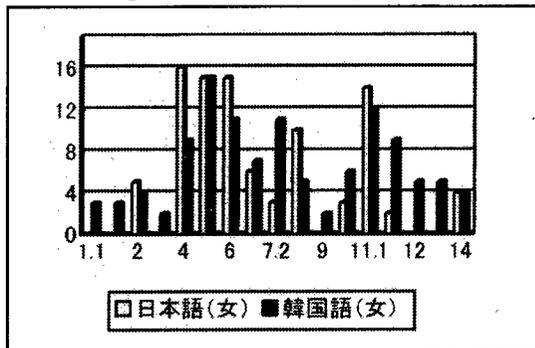
4.3 調査の結果

まず、【図3】から【図5】まで、14問17項の各項における「よね」「だろう」「じゃないか」の各形式を最適なものとして選択した人数を示した。縦軸は人数で、横軸はアンケートの問の項である。具体的な分析方法としては、アンケートの結果において男女別に日本語母語話者の選択が集中した項に対し、韓国人学習者がどのような選択傾向を見せているかを調べる。また、日本語母語話者のほぼ全員の選択が集中している項においては、その形式の固有の用法に該当すると考えられる。

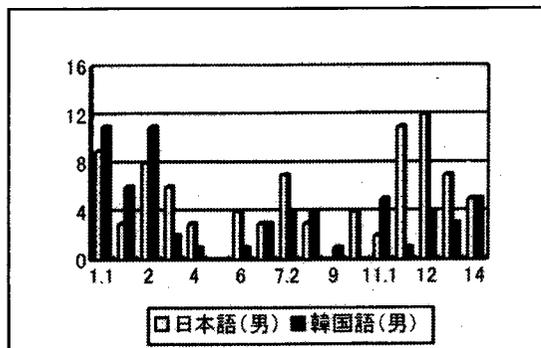
【図3】「よね」の選択(男)



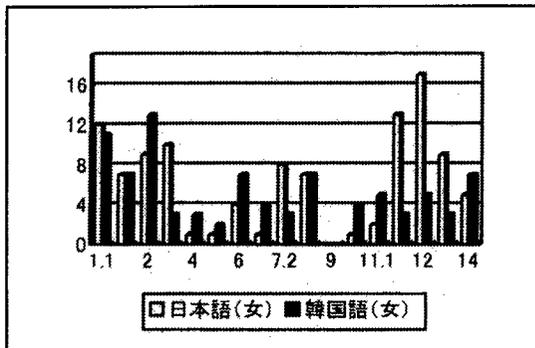
【図4】「よね」の選択(女)



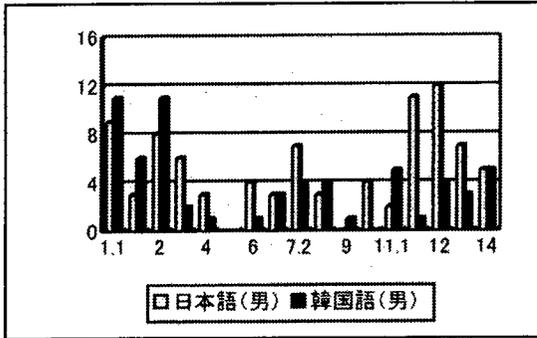
【図5】「だろう」の選択(男)



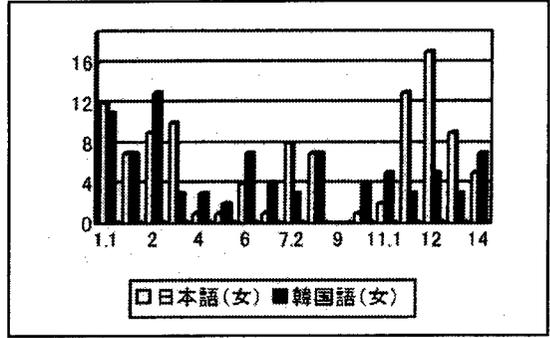
【図6】「だろう」の選択(女)



【図7】「じゃないか」の選択（男）



【図8】「じゃないか」の選択（女）



【図3】と【図4】から分かるように、韓国人学習者男性の場合は日本語母語話者の男性より11項、韓国人学習者の女性の場合は10項において「よね」の選択が多い。また、【図3】から【図8】まで示す結果と比較してみると、韓国人学習者は、他の二形式より「よね」の選択に集中していることがわかる。日本語母語話者の選択と、韓国人学習者の選択との差が多く見られる項については、その確認要求の用法に関して完全な習得ができていないということが言えるだろう。以上のことに着目して、各形式別に例文を具体的にみることにする。

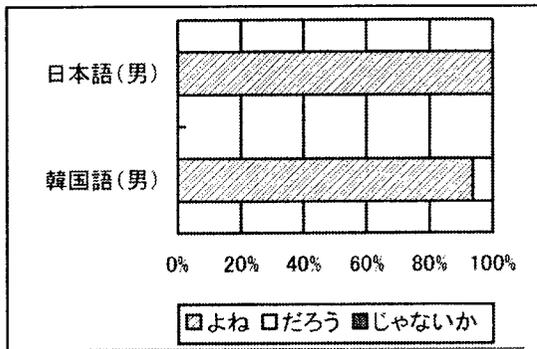
4.3.1 「よね」の選択

日本語母語話者の男性が「よね」の選択に最も集中している項目は問5・6・11.1である。この項目に対しては、韓国人学習者は男女とも日本人とほぼ同じ位の選択を見せている。日本語母語話者の女性は、この他に問4についても「よね」の選択が多いが、韓国人学習者の女性は、「よね」と「だろう」に分かれている。特に日本語母語話者が全員近く「よね」の選択に集中している問5と問6の「よね」の確認用法は、話し手の知識には欠けている確かさを聞き手に確認するという相互了解の形成確認の用法と考えられるもので、「よね」の固有の用法でもある。ただし、問6の設問の「訪問者：あ、こちら藤井樹さんのお宅ですよね? 【love letter】」に対しては、「じゃないか」を用いると微妙なニュアンスの違いが生ずることが認められる。【図9】と【図10】が示すように、韓国人学習者は、「よね」の相互了解の形成確認という用法に関しては、かなりの習得ができていると言えるだろう。

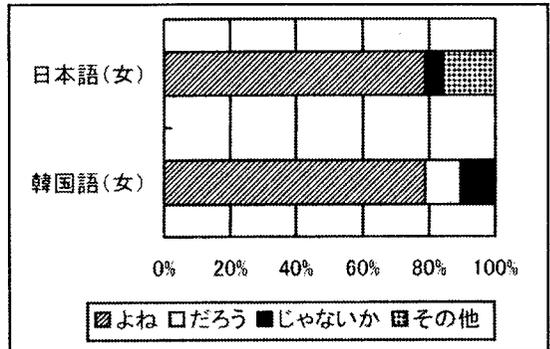
問5. 母：忘れちゃったの？

おじさん：ああ、いや、そうだったよね。 【love letter】

【図9】問5に対する選択（男）



【図10】問5に対する選択（女）



4.3.2 「だろう」の選択

日本語母語話者の男性の「だろう」の選択に集中している項目は問1.2・9・10である。問1.2は聞き手が認識できて当然だといった見込みに基づいて、聞き手に認識形成を要請する用法で、「だろう」と「じゃないか」は使用可能だが、「よね」は使用不適切なものである。また、問9は、聞き手の知覚・感情・判断などを話し手が推測して確認するという場合に、「だろう」の固有の用法でもある推量確認用法として使用されたと考えられる。従って【図11】と【図12】で見られる韓国人日本語学習者の「よね」の選択は、誤用だと言えるだろう。

【問1.2】 妹：お姉さんが運転すりゃいいじゃない！

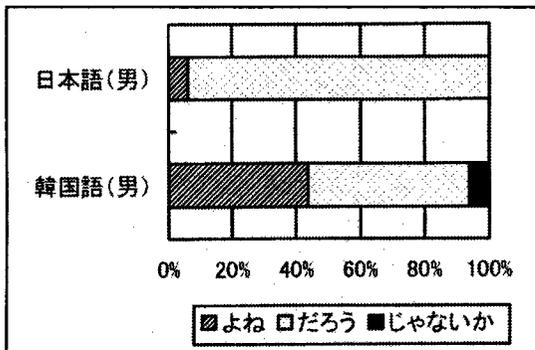
姉：しょうがないでしょ。

【秘密の花園】

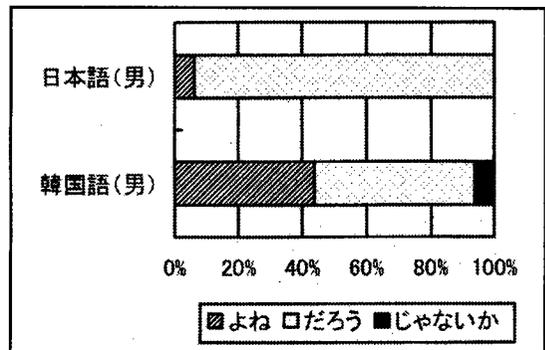
【問9】 母：こういう時は専門家の指示に従わなきゃ駄目なの。ね、わかるでしょ。

【love letter】

【図11】 問9に対する選択（男）



【図12】 問9に対する選択（女）



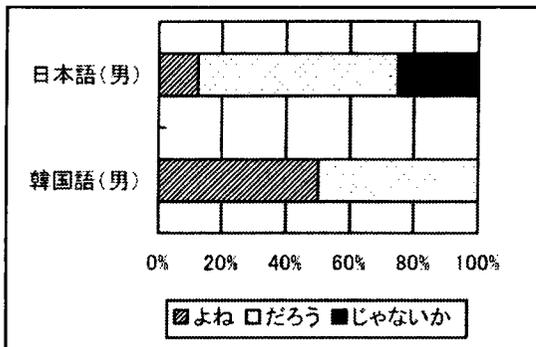
以下の問10は、話し手が聞き手に対して、聞き手の年齢を想起させようとする発話で、共通認識の喚起用法と考えられる。【図13】と【図14】のように日本語母語話者の選択は、他の二形式より「だろう」の選択に集中していることに比べ、韓国人学習者の選択は、特に男性の場合「よね」も多く選択されていることが分かる。

【問10】 母：今年で七五でしょ。

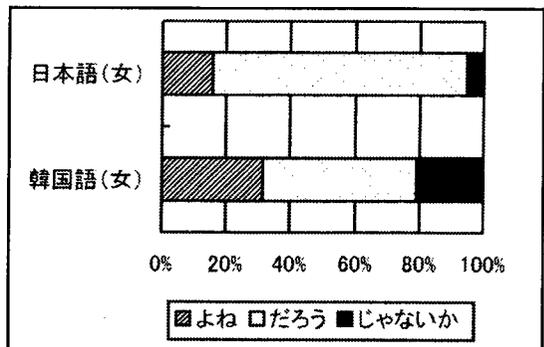
おじいさん：七六だ！

【love letter】

【図13】 問10に対する選択（男）



【図14】 問10に対する選択（女）



4.3.2 「じゃないか」の選択

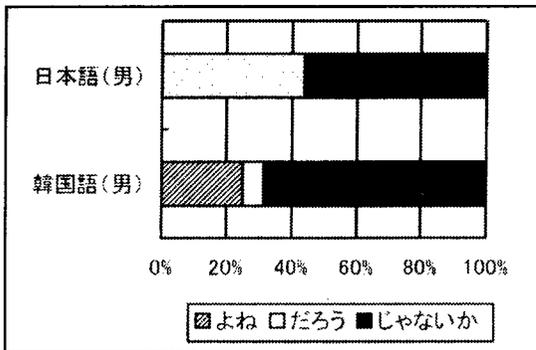
日本語母語話者が「じゃないか」の選択に集中している項目は問1.1・11.2・12である。問1.1の「じゃないか」の選択において、韓国人学習者は日本人母語話者とほぼ同じ選択傾向を見せている。問1.1は、聞き手に再認識を迫るような発話で、認識形成の要請の用法と考えられる。この場合、韓国人学習者の「よね」の選択は不適切である。しかし、問12の「じゃないか」の選択が少ないことから、「いいじゃないか」という表現が日常的に多く使われる表現であるため、比較的決まり文句として習得されていると考えられる。

【問1.1】 妹が機嫌悪く車を運転している。姉は新聞記事と地図を見ながら助手席でいろいろと指示している。

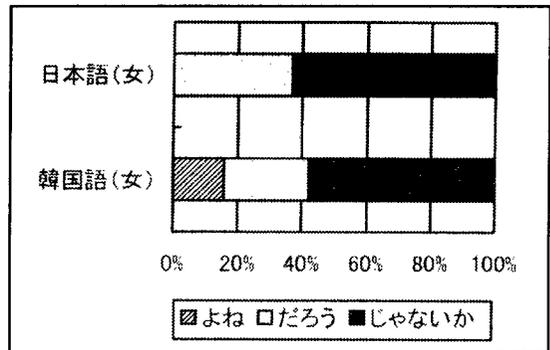
妹：お姉さんが運転すりゃいいじゃない。

【秘密の花園】

【図15】 問1.1に対する選択 (男)



【図16】 問1.1に対する選択 (女)

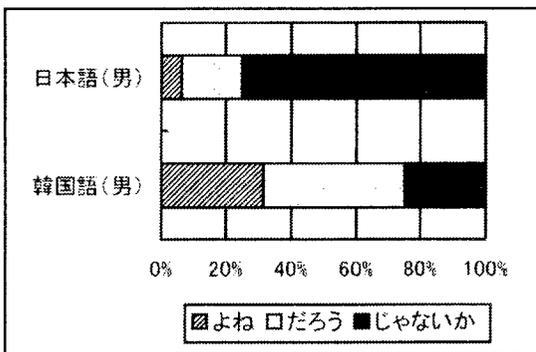


【問12】 娘：もう、だって、こないだまで元気がないって心配したじゃない。

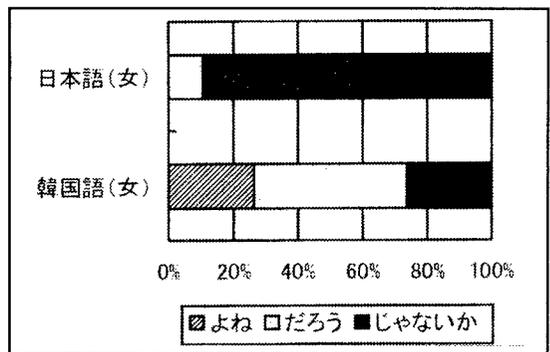
母：そうだっけ。…なんかいいことあったかしら

【Shall we ダンス】？】

【図17】 問12に対する選択 (男)



【図18】 問12に対する選択 (女)



問12は、話し手が得たことを詠嘆的に表明する発話で、認識生成のアピールの用法に近いと言えるものである。話し手の個人的な気持ちや意見を聞き手にアピールするような意図が強い発話として考えられる。結果を見ると、日本語母語話者の選択に「じゃないか」が圧倒的に多いことに比べ、韓国人学習者では「よね」も多数選択されている。

5. まとめと今後の課題

以上のKYコーパスとアンケート調査の分析から、韓国人日本語学習者の「確認要求表現」の中間言語としての規則性については、次のようなことが言える。

- (1) KYコーパスの中の韓国人日本語学習者の確認要求表現「よね」「だろう」「じゃないか」の三形式は、上級段階では習得され始めるが、まだ誤用も多く見られる。
- (2) 質問と応答という談話形式において確認要求表現の三形式中「よね」の使用が他の二形式より著しく見られる。また、「よね」の使用においても発話の中での情報の帰属先が話し手に属する場合が多い。
- (3) アンケート調査の結果からは、自然談話の中でも共通認識の喚起という用法として確認要求表現を用いる際「よね」が他の二形式より多く選択されている。
- (4) 「よね」に対して相互了解の形成確認の用法は習得されている。しかし、認識形成の要請の用法として「だろう」「じゃないか」、認識生成のアピールの用法として「じゃないか」の習得は不十分であり、推量確認の「だろう」の固有用法においても韓国人学習者の男性の誤用が見られる。

以上のように韓国人日本語学習者が、確認要求表現を含め、文末に「よね」を多く使用することがわかった。これは、「よね」の「ね」が「丁寧さ」を表すという知識に基づいて、聞き手の存在を意識し、「丁寧さ」を表すため使用しているためであると考えられる

また、韓国人学習者の言語は第一言語の母語と第二言語の日本語との中間的存在であるため、母語の干渉が考えられる。これは、韓国語の中でも敬語としての終結語尾「-요 (ヨ)」及び詠嘆・驚きなどの感情を表すために用いる終結語尾と呼ばれるもので「-대 (ネ)」、 「-대요 (ネヨ)」が存在していることである。これらの機能は日本語の終助詞「ね」のような働きを持つといえる。韓国語の終結語尾「-요 (ヨ)」「-대 (ネ)」「-대요 (ネヨ)」の存在が、「よね」に親密感を与えて、選択にも影響を与えているのではないかという可能性が、韓国人日本語学習者の「よね」の使用傾向の原因として考えられる。だが、本稿ではこの点について探ることはせず、韓国人日本語学習者の文末表現の選択における母語の干渉については、今後の課題としたいと考えている。

註

- 1 寺田裕子「「中間言語」とは何か—先行文献からの再考—『日本語教育』81,1993,p31
- 2 「よね」「だろう」「じゃないか」には、文体、方言、イントネーションの上で様々な形態があるが、本稿では、それぞれの変種を代表する名称として、これらを用いることにする。なお、「じゃないか」は、田野村(1998)の「ではないか」の「第一類」に該当する。
- 3 蓮沼昭子「対話における確認行為—「だろう」「じゃないか」「よね」の確認用法」仁田義雄(編)『複文の研究 下』くろしお出版 1995, p389~419
- 4 *は非文を表す
- 5 蓮沼昭子による五つ用法の名称の使用において以下、蓮沼昭子(1995)の明記は省くことにする。

- 6 OPI(Oral Proficiency Interview)は、外国語の運用能力をインタビュー形式で測定するテストである。
- 7 他レベルの人数が10人であることに對して超級の人数は5人であるため、超級の比率は(各項の使用回数×2)で算出したものである。
- 8 S:被験者, T:テスター
- 9 被験者の母語が韓国語(Korean)で、OPIテストにおける言語能力の判定結果が超級(Superior),01は、同じ母語で同じレベルのものも中での通し番号を表す
- 10 微妙なニュアンスの違いは認めるが、「よね」「だろう」「じゃないか」の三形式の置き換えが可能
- 11 上級(Advanced)の上(High)
- 12 <>の中はテスターの相づち的な発話
- 13 ロールプレイの中の発話である
- 14 一つの間いの中に二つの項について問うものがある
- 15 参考文献参照

【参考文献】

- 安達太郎1999「日本語疑問文における判断の諸相」くろしお出版
- 蓮沼昭子1995「対話における確認行為—「だろう」「じゃないか」「よね」の確認用法」仁田義雄編『複文の研究 下』くろしお出版
- 田野村忠温1988「否定疑問文小考」『国語学』152
- 田野村忠温1991「疑問文における肯定と否定」『国語学』164
- 井上 優1990「「ダロウネ」否定疑問文について」『日本語学』12-9 明治書院
- 宮崎和人2000「確認要表現の体系性」『日本語教育』106号
- 長友和彦1993「日本語の中間言語研究」『日本語教育』81号 日本語教育学会
- 寺田裕子1993「中間言語」とは何か 『日本語教育』81号 日本語教育学会
- 家村伸子1993「日本語否定疑問文の応答に関する中間言語研『日本語教育』81号 日本語教育学会
- 大島弥生1993「中国語・韓国語話者における日本語のモダリティ習得に関する研究 『日本語教育』81号 日本語教育学会

シナリオ出典

- 周防正行【Shall we ダンス?】'96年年鑑代表シナリオ集 シナリオ作家協会 映人社
- 山口史靖, 鈴木卓爾【秘密の花園】'97年年鑑代表シナリオ集 シナリオ作家協会 映人社
- 岩井俊二【love letter】'95年年鑑代表シナリオ集 シナリオ作家協会 映人社

謝辞: KYコーパス資料を使わせて頂くことになり、関係者の皆様に心から御礼申し上げます。また、アンケート調査に御協力いただいたテラ外国語専門学校・エールネットワーク専門学校の日本語学習者の皆様と日本語母語話者の皆様に、心から御礼申し上げます。

(論文受理:2000年11月1日/掲載認定2001年2月19日)

Confirmation request statement 「yone」 「darou」 「janaika」 as Interlanguage

Kyoung Sil KIM

The primary objective of this paper is to analyze the methods of acquisition and the benefits of confirmatory statements by Korean-speaker/Japanese learner. The data is based on KY Corpus.

As a result, it became clear:

1. that three forms of confirmation request statement 「yone」 「darou」 「janaika」 are acquired by the Advanced Level learners.
2. that incorrect use of those statements has otherwise often been the case. The confirmation request statement 「yone」 is more often used than the other two forms. It is considered that the five segments of confirmation request statement, classified by Hasunuma Akio, have not been practiced sufficiently.